

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2021年12月27日
作成 高齢者支援センター	忠生第2高齢者支援センター
作成者	遠山 晴美

1.開催日時	2021年12月13日	(月)	10:00	～	11:30		
2.会場	境川団地 7号棟集会所						
3.主催センター	忠生2	・	0	・	0		
4.参加人数	20 人						
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター		4人	<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター		1人	
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者		1人	(うち、医師	人)	<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者	8人
	<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員		4人	<input type="checkbox"/> 老人会	人	<input type="checkbox"/> 住民	人
	<input type="checkbox"/> 町内会自治会		人	<input type="checkbox"/> 警察	人	<input type="checkbox"/> 行政	人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他		(町田消防署 2人)				
6.開催テーマ	救急搬送時の連携とは						
7.地域課題	(1)課題設定の背景						
	身寄りのない独居・高齢者世帯数の増加にともない、CM・支援センター職員に救急車同乗を求められる事が多々あるが、業務都合上で同乗できない事もあり、医療機関とのスムーズな連携において課題と感じられる。						
7.地域課題	(2)検討した地域課題						
	近年地域内において独居者・高齢者世帯数増加が顕著である。また、救急搬送要請数も増加している現状にあり、対応する家族不在というケースも多い中で、関係機関とのスムーズな連携が必要となっている。						
8.会議の内容	町田消防署より救急隊からみた救急搬送時に必要な情報。医療関係者より、救急搬送された方が治療を受けるに当たって必要な外部支援。民生児童員、介護支援専門員、支援センター職員の救急搬送時における対応事例を報告。在宅から医療への連携で必要な情報をどの様に伝達すればスムーズに治療が可能になるかについて検討を行った。						
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	それぞれの関係機関が現状で抱えている課題・問題を資料や事例を交えて検討をおこなった。消防署からは救急搬送における現状、特に支援センターと連携した事でスムーズな搬送ができた事や例えば心肺蘇生を望まない方への配慮等、事前に「ACP(人生会議)」で本人の意思を確認しておく事の重要性について報告がなされた。医療機関からは救急搬送時から入院、退院までに事前に確認・準備しておいて欲しい事(保険証・緊急連絡先・既往歴・入院費用等)が具体的に示めされた。実際に救急要請・搬送時に立ち会うCMや支援センター職員、また地域の民生員からは、これまで関わったケース事例を紹介して頂き、そこから見えてくる課題について意見交換をおこなった。今回は具体的な対応策というよりは、各関係機関との意見交換・情報共有を図り、それぞれの関係機関がお互いの立場を理解・尊重しながら地域の高齢者がスムーズに治療に繋いでいく事を第一の目的として確認がおこなえた。次回以降今後地域での具体的な対応や取組みを検討していく。						

医療と介護の連携支援センター 確認欄

 確認済み